2011 March VOL.9

こうちミュージアムネットワーク通信

目次 CONTENTS

●土佐の文化財「寺田正写真文庫」・・・・・・・・・・P1
●随想「文化施設の使命と武器」・・・・・・・・・・・P2
●文化の言葉「美専」・・・・・・・・・・・・・・・・・P2
●会員紹介「高知県立のいち動物公園」「高知県立歴史民俗資料館」「中岡慎太郎館」「土佐山内家宝物資料館」・・・・・・・・・・P3
●活動報告「志の時代展と幕末ゆめ道場」・・・・・・P4
●時の話題「文化財保存」・・・・・・・・・・・・・・P4
●コラム「図書館と博物館」・・・・・・・・・・・・・P5
●現場通信「高知県内水族館・動物園４園館合同夏休み企画「まるごと土佐いきもの展」の開催について」・・P6
●「20010年ＮＨＫ大河ドラマ特別展　龍馬伝　を観て」・・・・P7
●図書の窓「土佐國群書類従」・・・・・・・・・・・・P7
●情報コーナー／会員一覧・・・・・・・・・・・・・・P8

土佐の文化財

寺田正写真文庫より　ディーゼル車による素材運搬（昭和30年）

◆寺田正写真文庫

昭和49（1974）年、写真家寺田正氏より「写真も歳月を経過すれば、写真家の手を離れ、皆の共有財産として、たくさんの人々に利用されるべきものだ」と、写真資料とともに写真原板7万5千点が寄贈されました。2年後、最初の写真文庫目録を作成、寺田正写真文庫が開設されました。以来、出版や放送など各方面で利用され、目にする機会の多い資料群です。

高知県内を中心に、昭和初期から半世紀に亘って撮影された写真は、山岳風景、航空写真、生活風景と多岐に亘り、作品としては勿論、それ以上に当時を「記録」することを意識して撮影されています。特に林業関係の写真は、撮影当時営林局に勤めていた同氏が時間と精力をかけて取材され、突出して数も多く、県内各地の営林署や国内屈指の規模を誇った魚梁瀬森林鉄道の姿を鮮明に伝えます。

写真文庫はその後も氏の寄贈を受け、現在は原版総数8万4千点を超えます。平成5年には改訂版目録を作成し、更に昨年度より主だった写真をデータ化するなど、「たくさんの人々に利用される」ため、目録は進化を続けています。

（高知市立市民図書館　館長　筒井秀二）

寺田正文庫目録・
寺田正写真文庫目録・寺田正写真文庫総合目録

随想

文化施設の使命と武器

土佐山内家宝物資料館
館長 渡部 淳

高度経済成長期からなのか、バブル崩壊後の不況が原因なのか、あらゆるものが金銭的価値で語られる傾向にある。産業というよりは、むしろ風土の一部といってもよい第一次産業の分野にまで、むき出しの市場原理が導入されつつある。文化施設もそうである。文化施設に経営理念と収益感覚が求められるのは時代の流れであると、一定理解しているつもりではあるが、それが評価の中心に据えられるのは怖い。即効性や効率性が求められる現在であるからこそ、長い時間をかけて醸成される「文化」そのものについて、そして文化施設のあり方について、私たちは今一度真剣な議論をしなくてはならない時をむかえている。文化の諸相を伝え、多くの人と共有するためには、独りよがりの議論ではなく、客観性や普遍性、そしてそのための科学的発想が不可欠であると私は思う。

「ノーベル賞をもらったといって大して嬉しくない」の発言で知られたノーベル物理学賞受賞者・益川敏英氏の発言には、ヘーゲルやマルクスが提示した哲学概念を用いた社会観がちりばめられ、学問論・文化論としても実に興味深い。彼が好んで引用する話に、ファーブルとパスツールの話がある。ある年、ファーブルの故郷で蚕の病気が発生した。そこにパスツールが政府から派遣されてきたのであるが、蚕というものをパスツールは知らなかったという。蚕の説明をパスツールから求められたファーブルは、そのような者に病気の伝染が防げるはずもないと思ったらしい。ところが、パスツールは見事に感染予防に成功したというのである。益川氏がいいたいのは、蚕に関して詳しいファーブルは大変な「物知り」であり、これに対して蚕のことは全く知らないパスツールは、病気の伝染原理を知っている「科学者」であったということである。そして、益川氏は次のようにいう。物事の原理原則を客観的に証明するのが科学であり、それは普遍的な価値を生み出す根源となる。蚕という個別を知らなくても、科学者として病理を学んだ者は病気を防ぐことができるのである。しかしそれは、すぐに役立つという目先の利益を追求していたのでは決して見つからないともいう。速効性ばかりを追求していては、科学も人間の発想も、社会も将来への展望もいずれはやせ細るということである。基礎科学の研究者らしい発言であるが、実はその基礎科学から様々な物理理論が発展し、めぐりめぐって現実社会に少なからぬ恩恵を与えていることも事実である。

私たちが文化施設の活動を考える際のヒントも、ここにあるのではないか。社会への即効的対応にのみ終始していれば、文化施設が基幹に据える学問も科学も徐々にやせ細り、やがては将来展望も失ったまま、活動自体が意義を失っていくのである。私たちには、長い時間と多くの労力をかけた調査・研究結果の膨大な蓄積の中から最上の成果を抽出、それらを客観的に説明していく義務がある。

成果の伝え方も問題である。過日、動物学者の次のような発言を聞いた。近年の自然番組は面白いと感じる人が多いが、あれでは科学的思考は育たない。エンターテインメント化していく番組構成は、わかりやすいが、実は教育という点では殆ど役にたたない、むしろ、学問を勘違いさせて正当な教育を阻害するだけだと彼は言い切った。ただ面白ければいいのではないのである。

現在、高知県では高知城の麓に新資料館建設を計画している。「山内家資料の保存等検討委員会」や「新資料館基本構想検討委員会」では、新資料館の使命として、資料の保存、調査研究、学校及び生涯教育への寄与に加えて、地域との連携・観光振興への協力ということを明文化した。この方針については、ミュージアムネットワークでも意見交換会を開催した。戸惑いの声も聞かれたが、従前の活動と付加された使命の整合性について、ことさら悩むことはない。これさえも地域論・観光論として学問的・科学的に分析していけば、今後の文化施設のあり方を考える素材となりうる。時代的要請に右往左往することなく、今こそ私たちが培ってきた学問・科学の手法を武器として、文化施設はどっしりと構えたいと思うのである。

文化の言葉

美専（びせん）

運送会社が所有する美術品専用車のこと。美術館では資料の輸送にはほぼ例外なく美専を使用するが、歴史資料等の貴重な文化財もこの車のお世話になる。エアサスペンション、空調設備、盗難防止設備等が完備し、学芸員が同乗することを前提にダブルキャブ（2列シート）になっているものが普通だが、量産できるものではないので、4トン車をベースに改造されていることが多い。

筆者は仕事柄、いやというほど各社の美専に乗り込んできたが、ひとつとして同じ仕様の車に出くわしたことがない。乗り心地がいいものもあれば、とんでもないものもあった。某運送会社がかつて使っていた美専は、信じ難いことにシングルキャブで、助手席に筆者が座を占めると、運転手以外の作業員は、あろうことかシートの後ろにある仮眠スペースにあぐらをかくのである。

美専もそのほとんどが禁煙車になり果てたが、いまだ喫煙可能な車両を運用している運送会社も僅かながらある。喫煙による高額納税者の筆者にとってはありがたい話なのだが、車室と貨物室の空調システムは完全に分離されており、積載した文化財に煙の影響が及ぶことはない。念のため。

（高知県立美術館　奥野克仁）

会員紹介 リニューアル特集

高知県立のいち動物公園

”動物展示の魅力アップ“と”人に優しい動物公園“をめざして、のいち動物公園は平成23年11月3日に20周年を迎えます。

それに先駆け、自然体験型の動物園としてよりいっそう楽しめるように、平成22年4月から施設のリニューアルを行い、新しい仲間も増えました。

テナガザル展示場では、地上10メートルもの新しいタワー（ギボン・ループタワー）を設置し、よりダイナミックに腕渡りをする姿を見ていただけるようになりました。また、全く新しい展示として、サバンナの主役のひとつ、ブチハイエナの展示が始まりました。2匹のブチハイエナがじゃれ合っている姿を、のぞき穴から間近で見られるように工夫がされています。西日本初登場となる動かない鳥として有名なハシビロコウは、するどい目つきに巨大なくちばしのユーモラスさで子どもたちにも大人気です。是非、会いにきてください。

平成23年の20周年の年には、記念イベントの開催計画があります。リニューアルと併せて楽しんで頂けるのいち動物公園に是非お越し下さい。

（高知県立のいち動物公園　清水なおみ）

大人気のハシビロコウ

高知県立歴史民俗資料館

高知県立歴史民俗資料館は平成22年4月10日にリニューアルオープンしました。館入口部分のバリアフリー化、AVホール・AVコーナーの改修も同時に実施しましたが、ここでは常設展示のリニューアルについてご案内します。

2階にあった民俗展示室は長宗我部展示室へと衣替えしました。左右の両壁面、展示室入口と中央奥に固定の展示ケースを設けました。展示内容は土佐における武士のおこりから始まり、長宗我部氏の台頭・隆盛期、そして滅亡までを実物の元親書状や家臣の子孫に伝えられてきた武具などが雄弁に物語ります。中央部は長宗我部氏が四国統一を目指すうえで重要な戦となった阿波中富川の合戦時の軍議の様子を再現し、戦国時代の雰囲気を来館者に体感していただけるゾーンとしました。

3階の総合展示室は壁面ケースの改修、LED照明への変更と一部の壁面ケースのエアタイト化を行い、フロア中央部にあった大型の模型類を撤去し、グリッドシステムを導入しました。グリッドは展示室中央部の天井を格子にしてそこへ照明やバナーを吊り下げて可変的な展示空間を作り出すことができるものです。展示は民俗資料も加わり、庶民史を軸に資料を大幅に入れ替えて土佐の歴史・文化・くらしを紹介しています。

（高知県立歴史民俗資料館　曽我満子）

新たにオープンした長宗我部展示室

中岡慎太郎館

当館は、中岡慎太郎の生涯と業績の紹介ならびに顕彰活動を行うことによって、歴史文化の振興発展及び活性化に寄与することを目的に、平成6年に設立されました。

慎太郎の遺品（着用の裃、愛用の硯箱など）をはじめ大石弥太郎、間崎滄浪、岩倉具視など慎太郎と関わりの深い人物の手紙や書画、慎太郎の妻の実家から伝わった「利岡家文書」などの古文書類を収蔵し、常設展示、企画展等で公開しています。

平成22年にリニューアルいたしました。まず、展示パネルの内容を、写真や図を多用したビジュアルなものに変更し、これまでの調査等で明らかになった事実も反映しました。次に、慎太郎の生涯を再現したドラマ、北川村における慎太郎像を紹介する映像をパソコンで閲覧できるようにしました。そして、2階常設展示室に温湿度管理及び照度調整に優れたエアタイトケースを設置し、資料をより安全に、効果的に、展示する環境管理の強化も図りました。

（中岡慎太郎館　豊田満広）

リニューアルした薩長連合コーナー

土佐山内家宝物資料館

当館では、建物の老朽化に伴い、平成21年度展示ケースと展示室内の改修工事を実施しました。当館が所蔵する旧土佐藩主山内家伝来の様々な資料の中には、特に環境の変化に敏感な美術工芸品や古写真が多く含まれています。こうした資料を安全に保存し、且つ公開をしていくには、資料劣化の原因となる光・温度と湿度・空気汚染・生物被害等の制御が不可欠となります。

今回の改修では、老朽化で特に問題となっていた展示ケース内の外気の影響を改善するため、気密性を高め湿度を一定に管理できることを重点に工事が行われました。

改修に際しては、使用する建材や接着剤についても、資料に悪影響を与えない安全なものを選択する必要があります。これらから発生する有害ガスは、資料の材質によって変色や退色の原因になるからです。さらに工事終了後も環境が落ち着くまで一定期間監視することで、ようやく資料にとって最適な環境が整います。

改修の結果、以前に比べ安全に資料を展示することが可能になり、併せて照明等の鑑賞上の問題点も改善されました。新しくなった展示室での今後の展覧会に、どうぞご期待下さい。

（土佐山内家宝物資料館　田井東浩平）

改修後の展示室

活動報告

「志の時代展」と幕末ゆめ道場

◎幕末維新の土佐「志の時代展」
・前期14館参加
・後期21館参加
平成20年12月から平成22年3月まで、各館が幕末維新の土佐をテーマとして、趣向を凝らした様々な企画展を行った。

◎第2弾幕末ゆめ道場「幕末維新の土佐」
―博物館学芸員巡回講座―
9会場、講師のべ18人、参加者361人

巡回講座は昨年度初めて開催し、概ね好評を頂いた。その第2弾として、今年度は少し開催地を変えて行った。前回は、3人の講師が持ち時間1人30分で行ったが、時間が少なすぎるという声が多く、今回は2人の講師が、1人50分で行った。そのため、時間に対する不満はほとんど無くなった。

アンケートを見ると、内容は前回以上に大好評で、こちらもほとんど不満の声は無かった。わずかな不満の声を拾い上げてみると、地域に根ざした話を聞きたかったという声があった。話の内容によっては無理な場合もあるので、絶対必要とは思わないが、可能ならば、その地域の話を上手く絡めると満足度がさらに上がるということだ。

一会場における平均参加者数を比較すると、前回が約62人、今回が約40人と随分減ってしまった。特に、梼原町18人、土佐市24人、土佐清水市10人、須崎市14人と極端に少ない地域ができてしまった。しかし、これらの地域でも、講師の話には大変満足してくださっているので、単にPR不足だったかもしれない。

また、多くの方が、この講座を歴史講座として捉えていることが気になった。確かに、この2回は『龍馬伝』の年だったので、「幕末維新の土佐」というテーマがあり、歴史講座の要素が強かった。しかし、決してそうではない。今後も開催するとすれば、歴史講座だけだと思われないテーマ設定を行うべきだと思う。それぞれの分野で専門的な話を平易にしていただくことによって、この2回とはまた別の魅力的な講座になると確信している。

さらに、2～3人くらいの規模で、例えば慎太郎と龍馬、五藤家・深尾家・伊賀家の三家老、長宗我部家と山内家、アンパンマンとフクちゃんなど、対比をしながら魅力を伝える対談形式も面白いかもしれない。自然史系のフィールドワークと歴史系の史跡巡りの組み合わせなども可能ならば面白そうだ。異分野の博物館が多数加盟しているので、柔軟な発想をすれば、大いに魅力は拡大しそうだ。

アンケートには、継続を期待する声や「各館に興味を持ち、行ってみたいと思う」という声も多いので、反省点を踏まえて、巡回講座継続を前向きに検討していくべきだと思う。

（高知県立坂本龍馬記念館　三浦夏樹）

22年度の活動報告

平成22年度は高知市立市民図書館が幹事館に加わり、同館長筒井秀一が幹事会長になりました。

【企画調整部会】
・総会　4月21日、10月26日
・幹事会　6月2日、8月17日、2月22日
・県立新資料館に関する情報交換会
6月2日
・会報誌9号編集

【研修企画部会】
・研修会「県立歴史民俗資料館
リニューアル概要説明・館内見学」
（4月21日）
・研修会「土佐山内家宝物資料館
リニューアル概要説明」（10月26日）
・研修会「写真資料における保存と
展示」（3月14日）
講師・東京都写真美術館　三井圭司氏

【教育普及部会】
・「こうちミュージアムネットワーク
専門的職員リスト2010」作成
・ホームページの更新

【幕末維新の土佐企画実行委員会】
・「志の時代展」
・幕末ゆめ道場「幕末維新の土佐」
（第2弾）全9回（7月24日～12月11日）
・「幕末維新の土佐　探訪図会」増刷

時の話題

文化財保存

平成22年12月13日、「資料保存地域研修－総合的有害生物管理法Integrated Pest Management－」が高知県立歴史民俗資料館で開かれた。同年夏に県の指定文化財が燻蒸により変色するという事故が発生した事態を踏まえ、改めて燻蒸や生物被害について学習する機会を設けようと、高知県教育委員会と国立文化財機構東京文化財研究所の主催により実現した。県内博物館関係者や市町村教育委員会ら計65名が参加し、文化庁文化財管理指導官や東京文化財研究所研究員らによる講義から最新の資料保存法を学んだ。

資料保存方法は、今も研究が進められ、発展し続けている。現在特に重視されているのは劣化要因を避け日々の監視の中で被害を止める保存環境の整備である。予算や環境など、状況は施設によって異なるが、その実情を踏まえ、比較的安価な殺虫殺黴処置法や、薬剤に頼らない害虫処理の手法など様々な対処方法も提案された。文化財を守り後世に伝えていくためには、これらの情報を共有し活用することが必要である。

（横山隆一記念まんが館　奥田奈々美）

コラム 図書館と博物館

新館に向けて議論の続いている県・高知市の図書館。両図書館には博物館に匹敵する貴重な郷土資料が収蔵されています。両館の担当者に現状と問題点を、県立図書館の山重壮一氏に図書館と博物館の関係について述べていただきました。

高知県立図書館所蔵の歴史資料

高知市空襲によって蔵書の殆どを失った当館は、山内家から寄託・寄贈を受けた「山内文庫」を軸に蔵書の再構築に努め、昭和21年7月に館としての活動を再開しました。

その後も、特に郷土資料の収集には力を入れ、当時、資料保存機関が他になかったこともあって、本来であれば資料館・博物館に収まるような歴史資料も、多く当館に集まりました。

現在山内文庫は土佐山内家宝物資料館に移管されましたが、三谷家文書や山中家文書のような地方資料のほか、土佐藩上士森家の旧蔵書、郷土史家松野尾章行旧蔵資料などが当館の歴史資料の骨格をなします。また近代のものでも高知県のブラジル移民関係資料である竹村家資料など、特色ある資料があります。

しかし現在これらの資料の多くが適切な保存環境に置かれているとは言い難く、また複本作成や目録作成も十分できていない状況です。

今後これらを有効に活用し、貴重な郷土資料として次の世代に伝えていくためにも、適切な保存環境の整備と、内容の再調査も含めた資料のデータベース化が急務であると考えています。

（高知県立図書館　渡邊哲哉）

高知市立市民図書館の歴史資料

高知市立市民図書館では、個人の著述や収集した書籍、家に伝来する古文書等を、各個人、または家の名をつけて「特設文庫」として保管しています。

現在約五十の文庫があり、藩政期の古文書、道具類といった原資料から近代文学に至るまで、時代、分野共に多岐に亘っています。例を挙げると、郷土史家、平尾道雄氏収集の「平尾文庫」、近代文学の稀本、錦絵を含む「近森文庫」、土佐藩家老職を務めた加賀野井家伝来の「加賀野井家資料」等々。いずれも歴史的、学術的に貴重な資料であり、特に平尾文庫は土佐藩政、幕末維新資料の集大成として、多くの研究者の方に利用されています。

収蔵された当時から整理作業が進められてきましたが、まだ多くの資料が酸性の段ボールやクラフト紙に入ったまま置かれています。また、その収蔵庫は、温度はある程度一定に保たれるものの、湿度の管理はできず、一般図書との共有書庫のため、人の出入りも頻繁です。これらの資料をなるべく良い状態で保管、提供するために、少しずつではありますが、中性紙箱への入れ替えやデータ登録などを進めています。

（高知市立市民図書館　掛水郷美）

博物館・図書館・文書館（MLA）の連携

最近、MLA連携ということがよく言われる。これは、museum.library.archiveの頭文字を取ったものだ。もともと、歴史の中で、博物館と図書館と文書館というものがそんなに区別されていたかというとそうでもない。有名な英国図書館も前は大英博物館附属図書館だった。

ずっと遡れば、プトレマイオス朝エジプトのアレクサンドリア図書館がある。これはムーサイオンと言われ、ミュージアムの語源だが、図書館が中心で動物園や植物園や博物館、それに研究所も合体した施設だった。

もっと遡れば新アッシリアのアッシュールバニパル王の図書館とも文書館とも言われるものが有名である。ここには神話もあれば行政文書もある。

いずれにしろ印刷術発明以前は図書館と文書館の区別がそんなに明確にあるということはなく、どちらも文字で表した記録のオリジナルや写しを保存していたのである。印刷術がないから、せっせと写しをつくることもこういうところの仕事であった。

印刷術が発明されてから、「出版」が成立するようになった。それ以前の「本」は公にしているものなのか、一部の範囲のものなのか、私的なものなのかよくわからない。印刷や出版が事業化されてからの図書館は、それまでの図書館とは性格を大きく異にする。「出版物」を普及する、それを貸出していくところ、大衆教育や啓蒙、そして、デモクラシーの担い手たる市民（citizen）の養成所、生存権としての学習権（ユネスコの考え方）と知的自由を保障し、メディア・リテラシーを育む機関となっていった。

これが、現代の図書館が文書館や博物館と大きく異なるところだ。一般的には図書館資料にとって大事なのは、その中身の情報ということになる。これが進んでいくと電子図書館という発想になる。一方、博物館資料や文書館資料はやっぱり「そのもの」が大事だ。

ところが今、一方で、MLA連携と言われる大きなトリガーもデジタル化である。これが、また一度離れたものを結びつけようとしている。デジタルの世界では、再びアレクサンドリア図書館をつくることができる。しかし、それは、再び一緒くたにしてしまおうという発想ではなく、それぞれ独立したものが連携しようということである。これが本当のネットワークである。進化とは一面、分化していき、それが新しい生態系を築くことなのだ。この意味を知ってほしい。

（高知県立図書館　山重壮一）

現場通信

高知県内水族館・動物園4園館合同夏休み企画「まるごと土佐いきもの展」の開催について

筆者の勤務するわんぱーくこうちアニマルランドをはじめとして、動物園・水族館では時期に応じて様々な企画展を行っていますが、その開催時期やテーマなどについては、これまでは各園館それぞれで行っていました。

平成22年の高知県はNHK大河ドラマ「龍馬伝」の放映にあわせて「土佐・龍馬であい博」(以下「であい博」)を開催し、全県をあげて観光ならびに産業のPRに力を入れていました。そこで夏休みの企画展は、本県全体の盛り上げに貢献し、同時に県内の動物園・水族館にも注目してもらうために「県内の動物園・水族館で連携してなにかできないだろうか?」と考え、県内の動物園・水族館では初めての試みとして、本県に生息する生き物を紹介する合同企画展を開催しました。また、開催後その成果を神戸市立王子動物園で行われた「第58回動物園技術者研究会」で発表しました。以下、概要を報告します。

本企画は「高知県内水族館・動物園4園館合同夏休み企画『まるごと土佐いきもの展』」と題して、平成22年7月22日～9月12日までの期間で開催しました。各園館の企画は4園館全て回ることで「まるごと土佐のいきもの」が実感できる展示内容として、わんぱーくこうちアニマルランド「土佐の天然記念物」、高知県立足摺海洋館「土佐の海の幸」、桂浜水族館「土佐の稀少な魚達」、高知県立のいち動物公園「土佐の里山」のテーマで展示を行いました。展示パネル、ポスターなどに「であい博」のキャラクターを使用することで本県全体での統一感を出し、県内の観光への寄与を期待しました。

また期間中スタンプラリーや交流イベントも併せて開催しました。スタンプラリーは3園館達成で企画展オリジナルポストカードをプレゼント、全4園館達成で、各園館それぞれにおいて動物との記念撮影、餌やり体験、オリジナルグッズなどの特典が年内を期限として受けられる「特別優待パス」をプレゼントしました。これらスタンプラリーの台紙やポストカードから本企画ポスターにいたるまで、全て職員による手作りでした。

わんぱーくこうちアニマルランド
上：企画展示　下：交流イベント

交流イベントは水族館―動物園での組み合わせとし、動物園から水族館へ出向く「ミニ動物園」および水族館から動物園へ出向く「ミニ水族館」を、ふれあい体験を主とした内容で実施しました。

各園館間の距離は最大150キロ以上離れているにもかかわらずスタンプラリー全4園館達成者は41人にのぼりました。この中にはなんと新潟県からの家族連れもいらっしゃいました。四国旅行で足摺海洋館を訪れた時にこの企画を知り、「せっかくなら全園館回ってみよう」となり参加されたそうです(ちなみにこの家族が全園館達成第1号でした)。この企画が狙い通りハマった形となり、思わず笑みがこぼれてしまいました。交流イベントは動物園にいながら水族館のタッチングが行える、あるいは水族館にいながら動物園のイベントに参加できるということもあり、当日はかなりの好評を博していました。

数字で見た期間全体の結果としては足摺海洋館が前年比増加したのみで、4園館全体での来園館者数の大幅な増加はみられませんでした。しかし、県外の園館の方からは「この猛暑の中ではよくやった方ですよ」との声も頂きました。他県の某動物園ではこの夏の入園者数は2割も減ったそうです。確かに猛暑では来園館者数は減るのが一般的な話であり、実は隠れた効果があったのかもしれません。

動物園技術者研究会の発表当日は秋篠宮殿下にも御覧頂き、また全国各園館の方からも興味をもって見て頂けました。動物園・水族館合同の企画というのは他の県でもあまり例がないようで、「うちの県でもやってみようかな」という感想も多く聞かれましたし、四国内の他動物園からは「四国全体でこういうことやれないかな?」といったコメントも頂きました。

本企画を振り返ると、来園館者数の増加という直接的な結果を得ることはできませんでしたが、マスコミでの告知の増加、参加者の良好な反応などメリットも多くみられました。特に新聞などにお知らせではなく取材記事として取り上げられたことは、各園館単独の企画展ではこれまであまり見られないことでした。本企画を来園館者数の増加へと繋げるためには、今回のみの試みで終わらず、今後も継続的な企画の取り組みを検討する必要があると思われます。

(わんぱーくこうちアニマルランド　早川大輔)

高知県立歴史民俗資料館

「2010年NHK大河ドラマ特別展　龍馬伝」を観て

2010年、NHK大河ドラマ『龍馬伝』が高知県を駆け抜けました。

予想をはるかに超える来県者をむかえ、高知市や安芸市を中心に、観光、商業、文化各施設は大いに賑わったと報じられています。

そして、県下博物館にとってもこの一年間は大きなチャンスであり、一方で過酷な試練でもあったように感じます。

歴史を扱う博物館展示の醍醐味は、資料から放たれる時代の息吹を肌で感じられることと、その資料から導かれる事実や考察に知的欲求を刺激されることです。

そこで各博物館は『龍馬伝』を念頭にお越しいただく来館者に対して、さまざまなアプローチを工夫したと見受けます。

来館者の抱いたイメージに「これ、これ！」とストレートに応える展示、逆に「えっ？」と裏切る展示、むしろドラマ性から距離を置いて丁寧に時代の背景や芸術文化を追及した展示など、そのバランス感覚がとても興味深く、また切実でもありました。

今回本稿執筆にあたり、各地の展示会を拝見しましたが、意欲作あり、冒険作、苦心作、冷静作ありと目移りの挙句、オリジナル展の中では到底絞り込めず、結局、NHK参画で全国を巡回した『2010年NHK大河ドラマ特別展　龍馬伝』になりました。

高知会場会期中3万人を越える爆発的な来館者を得たこの展示。私がお邪魔したときも、入口から出口までびっしり、事務所の電話も鳴りっぱなし。

あまりの盛況ぶりは、同時期に訪れた奈良遷都一三〇〇年にあわせた『正倉院展』（奈良国立博物館）とおもわず比べたくなるほどです。

展示はまさに「これ、これ！」。来館者が「見たい！」と期待した資料が怒涛のごとく次々とおしよせます。

龍馬関連資料は一時的な貸借でも収集が困難と聞きますから、この機会を逃せば一堂に観覧することはできないでしょう。来館者の満足そうな表情がまぶしいばかりです。

有料の音声ガイドも効果的で、ドラマの岩崎弥太郎役、香川照之さんの声で説明が始まると急に頷く笑顔が増えます。手元の情報源で来館者の便を図るのも大切で、常設展でも日常的に活用できないかと考えたりします。

ただ、どうしても指向的に「どうですか！」感が圧倒する展示です。龍馬直筆手紙の続出も若干食傷を誘います。このあたりが、あえて比べると『正倉院展』の方に、「どうぞ」的な懐の広さとどことない余裕を感じさせるのでしょうか。

いやいや『2010年NHK大河ドラマ特別展龍馬伝』はこれで良いのです。開催館も含め、県下各博物館がこの展示以外にも一年を通じて間断なく、さまざまな視点、論点の関連展示会を提供しました。そして『龍馬伝』終了後もその取り組みは続いています。

こうした展示会のそれぞれが十重二十重となって、全体として県下博物館の役割を果たしていたと思っています。

開催館は常設展示室もリニューアルし、長宗我部氏に関わる展示がボリュームアップしました。以前の民俗展示も好きでしたが、展示室中央に配した軍議の様子を髣髴とさせる模型などは迫力満点で、ひとたび室内に踏み入れば、すぐさまその世界観に引き込まれることでしょう。

（宿毛市立宿毛歴史館　矢木伸欣）

図書の窓

〈 土佐國群書類従 〉

高知県立図書館が、平成10年度から13か年にわたって逐次刊行を進めてきた史料集『土佐國群書類従』が今年度末の第13巻の刊行をもって完結します。

『土佐國群書類従』は、幕末期に庄屋を勤め、明治新政府にも出仕した吉村春峰の編纂による、江戸期の史料・著作を中心に戦国期から明治初年までの土佐関係の様々な資料・記録を収めた大史料叢書です。その多岐にわたる内容は、塙保己一の『群書類従』の体裁にならって、神祇部、法度部、主家部、系譜部、伝記部、災異部、漂流部、地理部、紀行部、歌文部、詩筆部、教訓部、釈家部、雑部の14部門に大別されますが、土佐の歴史、民俗、地理、文学などを研究する上で参考になる資料を、数多く含んでいます。

最終巻となる第13巻では、雑部の巻百五十一から巻百六十までの資料を収録していますが、谷秦山関係の書簡を稲毛実が取りまとめた「秦山先生手簡」、旧家所蔵の古文書集である「土佐國槙山小松氏古文書」や「溝淵氏所蔵古文書集」、鹿持雅澄の著作「繙覧委細」や「簀子下僠」、武藤小藤太の著作といわれる「患危憤怒録」、松岡毅軒の著作「南海襍志」など、まさに多彩な内容となっています。

特に「繙覧委細」や「簀子下僠」、「患危憤怒録」は、黒船の開国要求に対する幕府の対応を批判するものであり、土佐の勤王思想のバックボーンともいえる資料ですが、これらを敢えて史料集に収めた吉村春峰の立ち位置にも、興味深いものを感じます。

かつて民俗学の泰斗柳田国男は、内閣文庫の思い出を語った対談の中で、『土佐國群書類従』の翻刻出版を待ち望む趣旨の発言をしていますが（『国立公文書館報　北の丸』第15号）、今こうして『土佐國群書類従』全13巻が完結したことは、そんな柳田の言葉を引くまでもなく、地方史研究の発展という面からみても、まことに意義深いことだといえましょう。

高知県立図書館では、これまで『長宗我部地検帳』全19巻をはじめ、『皆山集』全10巻、『憲章簿』全7巻、『南路志』全10巻など、土佐史研究にとって基本資料となる出版物を刊行してきました。図書館の歴史資料翻刻出版という、先輩方が築いてきたよき伝統を継承し発展させるべく、『土佐國群書類従』全13巻に続いては、その続編ともいうべき、『土佐國群書類従拾遺』の刊行を計画しています。

（高知県立図書館　渡邊哲哉）

土佐國群書類従

情報コーナー IMFORMATION

◆展示会・イベント◆

【高知県立美術館】
- 日本近代洋画への道 ―山岡コレクションを中心に―
  4月3日(日)～6月12日(日)
- 横尾忠則展　絵入百九面相
  7月17日(日)～9月25日(日)
- 石元泰博写真展―桂・伊勢
  10月30日(日)～12月18日(日)
- 京都　細見美術館　琳派・若冲と雅の世界
  12月25日(日)～2月12日(日)

【香美市立美術館】
- 桐野伴秋の世界　幻想美術写真展
  4月3日(日)～5月15日(日)
- 船越桂展
  10月1日(土)～12月18日(日)

【高知県立歴史民俗資料館】
- 勤王党志士たちの遺墨・遺品展
  3月5日(土)～6月26日(日)
- おもちゃと模型のワンダーランド展
  7月8日(金)～8月31日(水)
- 土佐を撮る―田辺寿男の民俗写真3―(仮)
  9月10日(土)～12月18日(日)
- 発掘された日本列島2011
  1月2日(月)～2月14日(火)

【高知県立坂本龍馬記念館】
- 龍馬と土佐西南部の勤王志士
  7月16日(土)～10月7日(金)

【土佐山内家宝物資料館】
- 「えまきものを読む ～山内家伝来の絵巻物」展
  3月11日(金)～5月16日(月)
- 「土佐藩歴代藩主」展
  7月15日(金)～9月26日(月)
- 「描かれた土佐藩～国絵図の世界～」
  9月30日(金)～11月28日(月)

【佐川町立青山文庫】
- 佐川の幕末
  2月26日(土)～7月3日(日)
- 土佐勤王党と佐川
  7月16日(土)～12月4日(日)
- 土佐の画家たち(仮)
  12月17日(土)～4月8日(日)

【高知市立龍馬の生まれたまち記念館】
- 龍馬ゆかりの上町・小高坂の勤王志士たち
  7月25日(月)～8月24日(水)

【中岡慎太郎館】
- 東部地区の土佐勤王党と野根山二十三士
  11月12日(土)～1月9日(月)

【高知市立自由民権記念館】
- 山本梅崖と日中交流の軌跡
  3月1日(火)～5月15日(日)

【高知市春野郷土資料館】
- 高知城への道
  5月10日(火)～6月12日(日)
- 高知市ご当地キャラ展
  6月14日(火)～7月3日(日)
- 高知城を掘る
  7月30日(日)～9月4日(日)
- 明治29年の八田堰改修工事
  9月29日(木)～12月4日(日)

【高知県立文学館】
- 横山隆一と鎌倉文士と高知展
  4月16日(土)～6月19日(日)
- 岩波少年文庫創刊60周年記念 宮崎駿が選んだ50冊の直筆推薦文展
  7月2日(土)～9月4日(日)
- 市原麟一郎・よみがえれ土佐民話展
  9月17日(土)～11月13日(日)
- 太宰治と田中英光展
  11月26日(土)～1月15日(日)
- 横田稔　絵本の世界展
  1月21日(土)～2月22日(水)
- 星野富弘　花の詩画展
  3月1日(木)～31日(土)

【横山隆一記念まんが館】
- 2011高知のまんがあれこれ展
  4月23日(土)～7月3日(日)
- アンパンマンとやなせたかし大キャラクター展
  7月16日(土)～9月25日(日)
- まんが・漫画・マンガ展！2011(仮)
  10月15日(土)～11月13日(日)(予定)
- まんがの日記念・4コマまんが大賞作品展
  12月3日(土)～1月15日(日)
- 生き物イキイキ漫画展(仮)
  2月4日(土)～3月25日(日)(予定)

【香美市立やなせたかし記念館・詩とメルヘン絵本館】
- やなせたかしの愛・LOVE・デュエット展
  3月23日(水)～5月23日(月)
- "それいけ！アンパンマン"映画回顧展
  7～9月
- We LOVE アンパンマン ―大・キャラクターグッズ展―
  7～9月

【高知県立のいち動物公園】
- カブトムシ教室・動物クイズ大会 ぬいぐるみのパレード
  5月3日(火)～5日(木)
- ドリームナイト・アット・ザ・ズー
  6月4日(土)
- 夜の動物公園のいちでナイト
  9月18日(日)・24日(土)
- 開園20周年イベント
  11月3日(木)

【わんぱーくこうちアニマルランド】
- 第14回カブトムシの飼い方教室
  4月29日(金)
- 黒船襲来！土佐でみられる外来生物たち(仮)
  7月21日(木)～9月6日(火)
- サマースクール
  7月29日(金)・30日(土)

【高知県立牧野植物園】
- 五台山花絵巻 弐の巻～和蘭(オランダ)の春～
  3月5日(土)～7月3日(日)
- 野並允温水彩画展
  3月19日(土)～5月29日(日)
- 植物を知ろう！
  7月16日(土)～12月4日(日)

【高知県立理蔵文化財センター】
- 考古資料からみた高知県の歴史
  4月19日(火)～6月24日(金)
- 第三回「続・発掘へんろ」―古墳時代―
  7月1日(金)～9月11日(日)
- 道路開発であらわれた遺跡展V ―高知南国道路建設に伴う発掘調査成果から―
  9月27日(火)～11月26日(土)
- 出土遺物からみる江戸時代のくらし
  12月16日(金)～3月16日(金)

【横倉山自然の森博物館】
- 濱崎一途・松本卓弥二人展　即興詩と切り絵の世界
  4月9日(土)～6月19日(日)

【いの町紙の博物館】
- 第8回高知国際版画トリエンナーレ展
  10月8日(土)～11月20日(日)

ホームページアドレス　http://www.kochi-bunkazaidan.or.jp/network/konet_home.html

会員一覧

※22年度幹事館

入会を希望される方は事務局
県文化財団　TEL088−866−8013まで

安芸市立書道美術館
安芸市立歴史民俗資料館※
いの町紙の博物館
いの町立吾北中央公民館
絵金蔵
香美市立美術館
香美市立やなせたかし記念館※
香美市立吉井勇記念館
黒潮実感センター
高知県文化・国際課
高知県文化財団
高知県立足摺海洋館
高知県立坂本龍馬記念館※
高知県立図書館※
高知県立のいち動物公園
高知県立美術館※
高知県立文学館※
高知県立埋蔵文化財センター
高知県立牧野植物園
高知県立歴史民俗資料館※
高知こどもの図書館
高知市生涯学習課
高知市春野郷土資料館※
高知城懐徳館
高知女子大学総合情報センター図書館
高知市立市民図書館※
高知市立自由民権記念館※
高知市立龍馬の生まれたまち記念館
ジョン万次郎資料館
子どものための民具体験館
金剛頂寺霊宝館
佐川町立佐川地質館
佐川町立青山文庫
四国自然史科学研究センター
四万十市立郷土資料館
四万十町立美術館
定福寺土佐豊永万葉植物園
定福寺豊永郷民俗資料館
定福寺宝物館
宿毛市立坂本図書館
宿毛市立宿毛歴史館
須崎市立図書館
竹林寺宝物館
土佐市立市民図書館
土佐山内家宝物資料館※
中岡慎太郎館
中村時計博物館
平和資料館草の家
横倉山自然の森博物館
横山隆一記念まんが館※
龍河洞博物館
龍馬歴史館
わんぱーくこうちアニマルランド

個人会員

林一将(古渓城)

こうちミュージアムネットワーク通信　第9号

■平成23(2011)年3月20日
■編　集　こうちミュージアムネットワーク企画調整部会
(高知市立市民図書館／県立坂本龍馬記念館／高知市立自由民権記念館／横山隆一記念まんが館／県立歴史民俗資料館)
■事務局　(財)高知県文化財団
■電　話　088−866−8013
■印　刷　川北印刷